

高圧ガス事故事例情報シート

整理番号 H19-31	事故名称 液化窒素の暴発			
発生日 2007年9月17日	事象 火災		原因大分類 人	KHK Code 2007-0485
発生場所 横浜市	ガスの種類 窒素		原因中分類 誤操作、誤判断	
事故区分 消費先	死亡 0	重傷 0	軽傷 2	原因補足 液体窒素の取扱い
事故状況 <p>実験の準備中にドラフト内の加熱用のシリコンオイル浴から出火していることに気づいた。酸素源を断って消火しようと考え、シリコンオイル浴の近くにデュワー瓶の液体窒素を少量注いだところ、一瞬の間があつて液体窒素が気化して一瞬火が噴き出し、軽度の火傷を負った。</p>				
事故原因 <p>シリコンオイル浴近くに注いだ液体窒素が急激に気化したため、ドラフト上部に残っていた可燃性気体が気化した窒素ガスにより押し出され、シリコンオイル浴の火で着火したものと推定される</p> <p>なお、難燃性のシリコンオイルが着火した原因は、温度センサーが外れて過剰に加熱されたためと推定される。</p>				
措置・対策 <p>今後は、液体窒素を消火に用いないよう、周知を図ることとした。</p>				
教訓 <ol style="list-style-type: none"> 1Lの液体窒素は、650Lのガスになる等「液体窒素の取扱い」について基礎的な保安教育が必要である。 2. 設置されている消火器による消火訓練を定期的実施する必要がある。 				